

第1回白馬村観光振興のための財源確保検討委員会ワーキンググループ要旨

(1) 新たな財源の使途について

- 使途について優先順位をつけることが大事である。
- インバウンドの増加や国内の少子高齢化に伴う車離れの対応という観点から、二次交通の整備が必要である。ただし、村内バスについては方法次第で追加の財源なしで運行できる可能性もある。
- サイン、看板の整備が必要である。その他、看板・パンフレットの統一化・多言語化、交通、アクティビティ、予約アプリ、Wi-Fiスポットの整備が考えられる。
- 景観、街並み整備については、老朽化した建物等の整備、トレイル整備、滞在者が歩いて回ることができる街並み整備等が必要である。
- 今後、DMOや広域連携の視点も考慮した上で使途について考える必要がある。
- 集客力のあるイベントを継続的に行っていくために使うこと。
- 外国では、使途を明確にすれば観光客からも金銭的負担をしっかりとってもらえる事例がある。コンドミニアムやB&Bの宿泊客からもしっかり徴収できる仕組みが必要である。

(2) 新たな観光財源の基金化について

- 新たな財源を観光という用途のみに使われるようにするのであれば、基金化は必要である。
- （基金化した上で）使途の優先順位を決める組織を作ることが大事である。例えば、レッキでは観光局が使い道を決めている。
- 現状の観光協会費や観光局会費等についても、基金化してまとめても良いと考える。

(3) 観光財源の確保策について

- 使途として接客に使うものと、集客に使うものとの整理が必要である。
 - 接客税：お客様からいただくもの（宿泊税・・・宿泊者 リフト券、駐車場等・・・日帰り客）
 - 集客税：事業者が払うもの（広告宣伝費等に使うもので、事業規模により負担額を決める）
- ホテル税、観光税の整理が必要である。
 - ホテル税：宿泊したお客様から税を徴収するシステム。顧客データが正確にリアルタイムで入りデータとして活用できる事も大きな強み。
 - 観光税：飲食店、リフト利用者等日帰り客が対象となる。
- 税金という名前がつくと誤解や先入観を持ってしまう人が多い。その辺りをきっちりと説明していくことが大事。
- 新たな税を徴収する事となった場合、各事業者の負担が大きくなるため、徴収方法の工夫が必要である。例えば、協力金のような形とし募金箱を設置することも考えられる。

(4) その他

- 新たな観光財源は基本的には必要。新たな観光財源が確保されれば、新しい取り組みができる。その結果、一般財源で今まで使えなかった分野に使うことができる。
- 海外リゾート地との比較をした場合に、必要な額について算出すべきである。
- 使途と財源の関連性を明確にすべきである。
- 新たな観光振興のための財源確保が宿泊税という形でされた場合、入湯税については廃止すべきである。
- 新たな観光財源の確保策の前に、財政のスリム化、既存組織（観光局、振興公社、観光協会等）の効率化による財源の捻出など、他に財源を捻出する方法がないかについても考える必要がある。
- 「21 世紀白馬村観光の飛躍に向けて（平成 13 年）」について内容を見直し、やるべきことを整理し、優先順位をつけて実践していくことが大事。これをやらないと同じことを何度も繰り返してしまう。